

令和7年度 学校経営計画・学校評価

■4月8日(火)提出

■10月2日(木)提出

■3月13日(金)提出

学校番号	22	高知北	高等学校	課程	多(夜)
------	----	-----	------	----	------

高知県の教育の基本理念	(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3) 多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	スクール・ミッション	様々な生活スタイルや学習のニーズを持つ生徒に対応し、主体性や社会性を育成するとともに、生徒一人一人の多様な進路実現を図る。
	<p>【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高校を卒業したいという強い意志を持った生徒を募集します。 ○自分らしく学び、高校生活を送ることで成長したいという思いを持った生徒を募集します。 ○これまでの自分と違う新しいことにチャレンジしたいと願う生徒を求めています。 ○多様な背景をもった一人一人の違いを認め、ともに成長しようとする生徒を求めています。 <p>【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○他者の生き方を認め、自分自身の存在を前向きにとらえようとする心を育てます。 ○社会で自立して生きるために必要となる基礎学力を育成します。 ○社会生活に必要な社会人としての基礎力・社会性・コミュニケーション力を育てます。 ○最後まであきらめず、チャレンジする気持ちを育てます。 		<p>【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 共通講座・特別講座を受講することで学びの幅を広げていきます。 ○ 通信制や高卒認定試験等を活用することで3年間で卒業が可能となるよう編成します。 ○ 若者サポートステーションを活用し、生徒の進路意識の醸成を図ります。 ○ ハートフルドア事業を活用し、教育・医療・福祉の視点から生徒の成長を支援します。 ○ 生徒会活動や学校行事、他校との交流により生徒自ら主体的に考え、判断し、行動する場面を設定します。

学校関係者評価	
【学力の向上】 評価 【 B 】	<ul style="list-style-type: none"> ・授業デザインプロジェクトに基づいた授業改善を推進し、生徒の自律的な学びが促されている。学校評価アンケートの授業に関する質問では生徒からの肯定的評価が高く、授業改善への丁寧な取組が窺える。これまでの取組の継続に加えて、授業の中で汎用的な力を育む場を設定するなどさらなる充実を期待する。 ・学力は個々の差があり、サポートも大変だと思う。できている子、やろうとする子が退屈にならず、やる気を失うことがない環境づくりをしてもらいたい。
【社会性の育成】 評価 【 B 】	<ul style="list-style-type: none"> ・高知県オリジナルアンケート結果では、「将来の夢や目標を持っている」と回答した生徒の割合が増加するなど、取組の成果が窺える。地域と連携した活動や学校行事等では、他者との関わり合いを意図的に位置付け、生徒の社会性育成を育む取組の充実を図っている。 ・友達と関係をつくれる授業や活動、部活動の工夫をお願いしたい。
【チーム学校】 評価 【 A 】	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革に向けた取組が浸透しており、業務改善が図られている。また、学校の特色を生かし、進路保障に向けた相談支援、通級による指導を通じた個別支援の実施等、相談支援体制が構築されている。 ・あらゆる生徒に対して進路保障を最優先に考え、学校が一体となって取り組んでいる様子が伝わってくる。 ・卒業後、社会で自立できる力を身に付けられる学校生活であることを願っている。生徒に寄り添ってくれる先生方には保護者の一人として感謝している。

(評価) A: 目標を十分に達成 B: 目標をほぼ達成 C: やや不十分 D: 不十分

重点項目	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】	
学力の向上	<p>★確かな学力</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎となる知識・技能 ○思考力、判断力、表現力 ○生涯にわたって学び続ける意欲 <p>★自己の将来とのつながりを見通した学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力 ○キャリアデザイン力(やりぬく力) 	<p>不登校を経験している生徒が多く、特に入学年度の中途退学を防ぐ手立てが必要な状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中途退学者を3名以内 ○卒業年次生の卒業率100%(R6:100%) ○将来のための勉強をしている生徒の増加(R6:92%) 	<ul style="list-style-type: none"> ○少人数の授業を活用した細かな指導を行い、分かる授業を推進する。 ○中退防止に向けた取組(外部関係機関との連携した個別面談実施) ○生徒の学力の向上に効果的に働くよう、授業にICTを活用する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○中途退学者は0名、休学者は3名(9月末時点)である。 ○一部に授業の中抜けをしている生徒がいる。 ○ICT機器の活用はほぼ定着できている。 ○将来のための勉強をしている生徒78%(6月時点) 	<ul style="list-style-type: none"> ○欠席・遅刻の多い生徒には、積極的に声掛けをするなど改善が図れるように促す。 ○ICT活用率は高くなっているの、より一層一人一台端末の活用を進める。 ○休学中の生徒への支援(復学等に向けた指導)を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中途退学者6名(内、入学年度の中退者2名) ○卒業年次生の卒業率100% ○将来のための勉強をしている生徒92.5% ★休学明けの生徒の定着率0% 	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き、生徒一人一人への個別最適な声掛けを進めていく。 ○長期欠席者や休学生に対する個別支援を充実させる。 ○SC、SSWによる個別面談の実施。
	<p>★豊かな心、多様性・包摂性の尊重</p> <ul style="list-style-type: none"> ○豊かな人間性・道徳性・社会性 ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む) 	<p>学校行事にはほぼ全校生徒が参加しており、行事の参加率は非常に高く、生徒の満足度も高い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校行事を通じた基本的な生活習慣の確立と仲間づくりの推進(各行事の参加率を80%以上とする。) 	<ul style="list-style-type: none"> ○県体育大会、文化祭、生徒生活体験発表会等の行事を通じた仲間づくりを推進する。 ○教員が日頃から生徒に声掛けを積極的に行い、問題の発生の予防を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○新入生歓迎ホームマッチなど、ほぼ全校生徒が参加しており、行事の参加率は非常に高い。 ○県体育大会、生活体験発表会に向け、生徒の取り組み姿勢が見られた。 ○生徒指導部を中心に登校時間の声掛けを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今後、文化祭や生徒生活体験発表会などが行われるため、仲間づくりに活用する。 ○人間関係を中心に悩みを抱える生徒への支援(傾聴等)を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活体験発表会の代表選出や支部体育大会への参加など学校内外での活動に積極的に参加することができた。(ホームマッチ93%、県体89%、生活体験発表会80%、文化祭93%) ○ボランティア活動への広報活動が十分でなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒支援委員会だけでなく、生徒情報を教員間で共有し、適切な指導を行える体制を構築する。 ○ボランティア活動等の広報を積極的に行う。
取組項目	<p>【取組のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携 	<p>生徒会活動は比較的活発に行うことができている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○県オリジナルアンケート「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」の肯定的回答70%以上にする。(R6:73%) 	<ul style="list-style-type: none"> ○文化祭や防災講演会など、学校行事等で積極的に地域・関係者を招待する。 ○石立保育園との連携(「保育基礎」を通して)強化する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○11月に行われる文化祭に向け準備中である。 ○石立保育園との連携は家庭科を中心にしてきているが、交流当日に生徒が欠席をしてしまい、直接的な交流は行えなかった。 ○「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」の肯定的回答71%(6月現在) 	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの活動を継続して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○県オリジナルアンケート「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」の肯定的回答75% ★文化祭など生徒会活動は活発に行うことができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校等へ文化祭などの学校行事の広報を行う。 ○次年度も引き続き「保育基礎」での地域連携を行う。
	<p>【取組のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○県オリジナルアンケート「高校入学以降の学習で、環境や社会の問題に対する意識や行動に変化があった」の肯定的回答60%以上にする。(R6:59%) 	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科において、ICT機器を積極的に活用する。 ○自分の言葉で表現できる生徒を育成する。 ○「総合的な探究の時間」では、生徒が成果を発表する場面を設ける。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科において、タブレットを活用したICT機器を利用する場面は増えている。 ○「総合的な探究の時間」では、各学年で取り組みを進めている。 ○「高校入学以降の学習で、環境や社会の問題に対する意識や行動に変化があった」の肯定的回答68%(6月現在) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器を単なる提示装置や検索ツールでとどめるのではなく、活用するための取組を教員間で確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○県オリジナルアンケート「高校入学以降の学習で、環境や社会の問題に対する意識や行動に変化があった」の肯定的回答77.5% ★自分の意見を表現することに苦手意識を持つ生徒が多い。 ★「総合的な探究の時間」では、各学年で生徒が成果を発表することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「総合的な探究の時間」やDXハイスクール事業を活用し、教科横断的な活動を行う。

チーム学校	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】	
チーム学校	<p>★学校の魅力化・特色化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学力向上・進路保障 ○生徒会活動の活性化 ○DXハイスクールの推進 	<p>安易に学校を休む生徒が多く、進路実現のための障害となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○進路決定率100%(R6:50%) ○リーダー研修の実施 ○総合的な探究の時間を中心としたDXに関する授業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○年間を通じた進路学習・体験学習の充実を図る。 ○若者サポートステーション等の関係各機関との連携を行う。 ○生徒会活動の充実(文化祭等の学校行事)を図る。 ○文化祭において、DXに関連する発表を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○粘り強い指導を行っているが、欠席が多くなり、進級や卒業が危うい生徒がいる。 ○姉妹校の岡山県立鳥城高校生徒会、昼間部生徒会と夜間部の生徒会が集まり、香美市にてリーダー研修を行うことができた。 ○科目「総合(特)」やパソコン部の活動を中心に、文化祭へ向けての発表準備を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○進路決定については、生徒の特性に配慮しつつ粘り強い指導を続けて行う。 ○文化祭など、生徒会の活躍の場が今後も続くので、積極的に参加できるように指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○進路決定率90% ○リーダー研修の実施 ○主に4年生がDXに関連する授業に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○DXハイスクール事業を活用し、生徒の自主性を育む活動を行う。 ○進路への意識づけを早い学年から行い、目標を持った学校生活を送れるようサポートを行う。
	<p>★教職員の倫理観の堅持</p> <ul style="list-style-type: none"> ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応 	<ul style="list-style-type: none"> ○倫理観堅持のための具体的な目標(指標) ・個人情報管理の適正な管理のために複数人によるチェックを行う 100% ・校務系パソコンへのポップアップお知らせ機能を必ず確認する 100% ○校内研修の実施回数 年4回以上 ○不祥事防止委員会の実施回数 年6回以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○成績会議後に個人情報の取扱いについて確認し、確実に実行する。 ○連絡会でお知らせ機能の内容を再度確認する。 ○研修において効果的な方策を検討する。 ○不祥事防止委員会では、些細な案件も見逃すことがないよう情報共有し、全職員に周知する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○9月までに職員会議等の時間を利用して、校内研修を5回実施 ○運営委員会にあわせて、不祥事防止委員会を5回実施(9月末現在) 	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き定期的な研修、委員会を実施し、不祥事の予防を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○不祥事防止に関する校内研修を7回実施 ○不祥事防止委員会を7回実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ヒヤリハットを含め、職員室内での日頃からの声掛けをこれからも続けていく。
	<p>★長時間勤務の解消</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校務の効率化を図り、勤務時間を超えないように効果的な教育活動を行う。 	<p>時間外勤務はほとんどない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○働きやすい職場づくりを行う。 ○職員の勤務外時間を月45時間以内を厳守する。 ○ICTの活用を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各分掌で業務の内容を点検して、業務の精選・見直しを行う。 ○校内の勤務状況一覧によりチェックを行う。 ○教材や会議資料のペーパーレス化を推進する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○勤務外時間については定期的に管理職が確認しているが、基本的には各自がしっかりと自己管理できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各分掌で業務の内容を点検して、業務の精選・見直しを行っており、引き続き取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○職員の勤務外時間は月平均約6時間 ○ほとんどの授業においてICTを活用することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各分掌を中心に業務の効率化を今後も進めていく。